

はじめに

2012年度には、すべての都道府県で地域がん登録が実施される目処が付き、地域がん登録の水平方向での展開が大きく前進しました。日本の地域がん登録は、各登録室が、登録精度の向上と登録資料の活用促進に向け、他の登録室の取り組みから学びながら、創意工夫をこらさず段階に進んだといえます。各登録室での運営と成果発信を、量的、質的に拡充するうえで、人材の確保は不可欠です。各登録室は、医学教育関係者と連携して、登録実務を、高精度に即時性を持って推進できる人材、また、がん登録のしくみの改良と登録資料の活用に関与する研究を推進できる人材の発掘にも取り組まなければなりません。各地域がん登録室がこれから置かれるこのような状況を踏まえ、2012年6月7-8日に高知県で開催させていただいた第21回学術集会のテーマを「がん登録の深化」とさせていただきます。がん登録に携わる実務者、教育者、研究者が連携し、がん登録を深化させるための課題と対策を探る機会とすることをめざしました。

第21回学術集会から、日本の地域がん登録の深化に貢献しうる新しい企画が二つ開始されました。一つは、学術委員会によるシンポジウムの企画・主催です。学術集会参加者による、がん登録の精度向上と活用促進をめざす討論が、継続的に行なわれることをめざしています。今回のシンポジウムでは、近年著しく届出精度が改善した県から、具体的な工夫や取り組みをご報告いただきました。他の登録室は、短期間で届出精度を向上させるヒントを得ることができたと思います。もう一つは、学術奨励賞の設置です。登録実務を大切にしながら地域がん登録に関する研究に従事している方が目標とする賞となり、人材の育成に貢献すると期待されます。

第21回学術集会での報告と討論が、がん登録に関する実務、教育、研究の三領域が拡充する機会となり、日本の地域がん登録の深化につながれば、学術集会主催者としてこの上ない喜びです。

(安田 誠史)